

平成 19 年度用高等学校情報科 情報 B 最新版 (情報 071)

平成 20 年度用教科書につきまして以下のように訂正します。ご迷惑をお掛け致しますことを謹んでお詫び申し上げますとともに、ご指導に際しましてご配慮戴きますようお願い申し上げます。

(株)新興出版社啓林館編集部

訂正箇所		原文	訂正文
頁	行		
59	1-2	最大値を求めるアルゴリズムを、 <u>あるプログラム言語</u> で表した例である。	最大値を求めるアルゴリズムを、 <u>BASIC 言語</u> で表した例である。
61	4-5	そのなかでの最大値を求める <u>アルゴリズムを働かせる</u> 。	そのなかでの最大値を求める。
64	傍注*11	$\frac{(N+1)}{2}$	$\frac{N+1}{2}$ (分子の余分な括弧を削除します)
66	6	$\frac{(L+H)}{2}$	$\frac{L+H}{2}$
66	18	2	2 (分子の余分な括弧を削除します)
101	10	雑誌記事などがある。	雑誌記事集などがある。
121	表 3 3 行目	貸出番号 3 の「返却年月日」 2007/05/20	2007/05/11 ( p.107 図 6 などと整合性のため )
137	図 6	192.168.0.2	123.45.67.89
137	図 7		( 例を、すべてプライベートアドレスからグローバルアドレスに変更します )
138-9	図 9		
137	表 2	用途	主な用途
139	図 9 手順 3	次に <u>どちらの</u> パケットを送り出せば	次に <u>どちらへ</u> パケットを送り出せば
140	図 10	URL に示した WWW サーバに	URL <u>によって</u> 示した WWW サーバに
162	22, 23	<u>人工現実感</u>	仮想現実
168	11		( 連動して、さくいんも変更します )
162	傍注*38	<u>仮想現実感ともよばれる。</u>	削除
169	コード 124, 126	文字コード表の右列 「   」と「 ~ 」	それぞれ、「   」,「 ~ 」(途中で切れ目のない縦棒と、アップバー)に書体変更

改善のための訂正

訂正箇所		原文	訂正文
頁	行		
70	13	暗号*15 を <u>用いた</u> 。	暗号*15 を <u>用いたと伝えられている</u> 。
70	傍注*15	<u>巡回暗号</u> 、または、 <u>シーザー暗号</u> と	シーザー暗号と
82	図 8	図内の画面から引出線が出ていて「表」、「グラフ」と付されている。	引出線および、「表」、「グラフ」を抹消。 ( 誤解を招く恐れがあるため )
103	図 3	<u>左の画面に表示されている</u> <u>コンピューター</u>	コンピュータ ( 用字用語を統一します )
108	19	<u>持って</u>	<u>もって</u>
146	図 16	<u>持つ</u>	<u>もつ</u>
152	18	<u>持たない</u>	<u>もたない</u>
156	14	<u>受け持つ</u> <u>持って</u>	<u>受けもつ</u> <u>もって</u> ( 用字用語を統一します )
112	図 11	雲形フキダシ内、名簿の絵	「部活名簿」を左綴じに変更します。
124	2	<u>10~20 件程度のデータ</u> を	<u>表 3、表 4、表 5 のデータ</u> を
124	図 24	<u>すべてのデータ</u> を入力するのは、手順	<u>実際のデータ</u> を入力するのは、手順
127	7	室内楽とオーケストラ	オーケストラにより演奏された室内楽曲
142	8	<u>瞬時に情報を交換できる同時性</u> 、	<u>短い時間で情報を伝達できる高速性</u> 、 ( 「同時」という言葉では誤解を招く恐れがあるため「高速」に変更します )
142	図 12	<u>同時性</u>	<u>高速性</u>
163	5	遠方からの <u>疑似体験</u> や共同作業、	遠方からの疑似体験や共同作業、 ( 用字用語を統一します )